

みんな元気ですか。勉強していますか。本はもう何冊読み終えましたか。家の手伝いをしていますか。家庭において何か役割を担わなきゃいけませんよ。与えられるだけでは自立することはできませんから、子供から脱却するいい機会だと考えなさい。朝は親御さんに起こされなくても決まった時間に自分で起きていますか。睡眠は足りていますか。三食きちんと摂っていますか。人間は習慣の生き物です。強制力のない状態でいかに正しい習慣を守るか、あるいは新たに作り上げていくか、今私たちは試されているのです。そして、あらゆる場面で Educated Action がとれているでしょうか。油断しないで下さいね。

早く君たちの声が聞きたい。校長室の前を通る君たちの音がない。スリッパの音、笑い合う声、「しー！ 校長先生の邪魔になるから」と声高な友人を制するやさしい声、そんな音が全くしない。昔、音を失った青年が主人公のドラマで、音のない世界を「まるで暗い海の底にいるような孤独」と表現しているのを思い出してしまいました…。

さて、コロナ禍の影響で私たちの生活が危機に瀕していると言われています。国家的なピンチだというわけです。一方、どんなピンチが訪れても「ピンチはチャンス」と考えなさいという人もいます。確かに、ピンチを軽視してはいけませんが何とかチャンスに変えようと努力することは大切です。「危機」という漢字には、すでにそのことが示されています。「危機」の危は「危険」の危ですから「ピンチ」、「危機」の機は「機会」の機ですから「チャンス」、つまり「危機」という漢字そのものが「ピンチはチャンス」と読めます。

君たちは今、いつもと違う環境に置かれています。生まれ育った家というのは慣れ親しんだ空間ですが、外出を控え長時間その空間にいななければいけないというのは、やはりいつもと違う環境です。今までになく一人の時間が増えたことでしょう。それを好機ととらえる姿勢が大切です。この機会に何か一つでもできるようになろう、そう考えて下さい。『無人島に生きる十六人』を読めば、人間はどんな環境でも絶望せず学ぶことができることがわかります。

『論語』を暗唱してもいい、藤村の詩を覚えてもいい、何か継続してできることを探してほしい。いつも言うように「学問の大禁忌は作輟なり」ですからね。もし君たちがこの機会にいい習慣を身につけることができたなら、それはピンチをチャンスに変えたことになります。

なお、一人の時間について注意することは二つあります。

一つは「独りを慎む」ということ。誰も見ていない時間を持つということは、匿名の世界を持つことにつながります。世の中の悪意はすべて匿名です。卑怯な行為は匿名です。これは人間の弱さだね。ですから、一人きりの時こそ身を慎まなくてはなりません。いいですね。

もう一つは「時を薄めてはならない」ということ。自分の裁量に任される時間をどのように使うか、そこにその人の生き方が表れます。時は戻らない。一瞬一瞬を大切に生きる。わかっているがなかなか実践できないことかもしれませんが、時を薄めてはいけませんよ。

現時点では5月7日に教育活動を再開する予定です。生徒諸君だけでなく全教職員が元気でその日に学校に来られるよう、学校内感染を避けることが最重要と考えて、明日(22日)以降学校を閉鎖し、私たちも自宅待機に入ります。

緊急の要件があれば三重高校(0598-29-2959)にご連絡ください。(9:00~15:00 土日祝日を除いて)

その際は、必ず連絡先をお伝えください。折り返し担任から連絡するよう手配します。